



# 平成29年度 果樹情報 第12号

(平成29年9月 7日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (8月後半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると4半旬が22.1℃で2.7℃低く、5半旬が25.3℃で0.5℃高く、6半旬が22.9℃で1.5℃低く経過しました。

この期間の降水量は76.5mmで平年の90%でした。

## 2 生育状況 (9月1日時点：果樹研究所)

### (1) も も

#### ア 中晩生品種の収穫期と果実品質

「まどか」の収穫盛期は8月13日で平年より1日早まりました。果実の大きさは397gと平年より大きく、RM示度(糖度)は13.5と平年並でした。

「川中島白桃」の収穫始期は8月17日、収穫盛期は8月19日で平年より7～8日早まりました。果実の大きさは473gと平年よりかなり大きく、RM示度は13.6と平年より高い状況です。

「ゆうぞら」の収穫始期は8月24日、収穫盛期は8月27日で平年より7～8日早まりました。果実の大きさは373gと平年より大きく、RM示度は11.8と平年より低い状況です。

表1 モモの中晩生品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	7/31	8/ 2	7/21	8/ 2	8/ 5	7/24	8/ 7	8/10	7/28	278	265	257	13.6	12.6	13.0
まどか	8/ 8	8/10	8/ 2	8/13	8/14	8/ 5	8/17	8/19	8/10	397	333	377	13.5	13.2	14.6
川中島白桃	8/17	8/24	8/15	8/19	8/27	8/17	8/23	8/31	8/22	473	333	434	13.6	12.8	15.0
ゆうぞら	8/24	8/31	8/16	8/27	9/ 4	8/20	8/31	9/ 9	8/25	373	324	355	11.8	12.7	14.0

※ 平年値：1986～2015年の平均値

### (2) な し

#### ア 果実肥大

暦日比較では、「豊水」は縦径106%、横径106%と平年よりやや大きく、満開後日数による比較においても平年よりやや大きい状況です。

#### イ 「幸水」の収穫期と果実品質

「幸水」の収穫始は8月25日で平年並でした。RM示度は11.0で平年より低い状況です。

表2 「幸水」の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			RM示度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/25	8/25	8/19	8/30	8/31	8/22	9/4	9/6	8/25	380	380	376	11.0	12.6	12.8

注) 平年値は、1986～2015年。

#### ウ 「豊水」の成熟経過

満開後129日(8月31日)における成熟調査の結果は、果実硬度が6.3ポンドで平年よりやや高く、果皮中クロロフィル含量は7.4μg/cm<sup>2</sup>で平年よりやや多く、RM示度は10.9で平年より低い状況です。

### (3) りんご

#### ア 果実肥大

暦日比較では、「ふじ」は縦径100%、横径101%と平年並であり、満開後日数による比較においても平年並の状況です。

#### イ 「つがる」の成熟状況と収穫期

満開後120日における果実品質は、硬度が12.1ポンド、デンプン指数は4.0、RM示度は14.7、リンゴ酸は0.28%です。生育日数で比較すると、果肉硬度とデンプン指数は平年並に推移しています。また、アントシアニン含量とクロロフィル含量はほぼ平年並となっています。また、収穫始期は、8月28日で平年並でした。

### (4) ぶどう

#### ア 収穫期と果実品質

「あづましずく」の長梢栽培及び短梢栽培の収穫始期はそれぞれ8月8日、8月10日で、いずれも平年より5日早まりました。

「巨峰」(有核栽培)の収穫始期は8月28日で平年より6日早まりました。また、「巨峰」(無核栽培)の収穫始期は8月30日で平年より8日早まりました。

収穫果の果実品質は、「あづましずく」の長梢栽培及び短梢栽培ともに果皮色(カラーチャート値)が平年よりやや高く、RM示度、酒石酸含量、糖酸比は平年並でした。「巨峰」(有核栽培)では果皮色は平年よりやや高く、RM示度は平年並、酒石酸含量は平年より高く、糖酸比は平年より低い状況です。

表3 「あづましずく」「巨峰」の収穫期と果実品質

栽培方法	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく(長梢栽培)	8/ 8	8/13	8/ 4	8/12	8/16	8/ 6	8/15	8/19	8/ 8
あづましずく(短梢栽培)	8/10	8/15	8/ 8	8/16	8/18	8/14	8/21	8/21	8/16
巨峰(有核栽培)	8/28	9/ 3	8/24	8/29	9/10	8/26	8/30	9/16	8/29
巨峰(無核栽培)	8/30	9/ 7	8/29	-	9/10	8/29	-	9/16	8/29

  

栽培方法	果皮色(カラーチャート値)			RM示度(° Brix)			酒石酸			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく(長梢栽培)	10.0	9.2	9.2	17.7	17.9	18.2	0.51	0.51	0.56	34.6	36.4	32.1
あづましずく(短梢栽培)	9.7	8.8	9.3	18.0	17.8	19.6	0.55	0.54	0.47	33.0	34.3	41.2
巨峰(有核栽培)	11.1	10.2	9.7	18.9	19.2	18.6	0.63	0.53	0.49	30.0	38.0	38.1
巨峰(無核栽培)	10.8	9.5	9.0	17.0	16.7	15.8	0.61	0.52	0.58	27.6	34.4	27.0

※「巨峰」(無核栽培)の果実品質は収穫始め(8/30)のデータ。

※ 平年値：「あづましずく」は2004年～2016年の平均値

「巨峰」(有核栽培)は1988年～2015年の平均値

「巨峰」(無核栽培)は1998年～2016年の平均値

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

### 3 栽培上の留意点

#### (1) も も

##### ア 秋雨時の土壌水分管理

8月の月間降水量は173.5mm(平年比112%)と多く、日照時間は88.8時間(平年比45%)と曇天が続いていることから土壌は現在過湿状態にあります。土壌の過湿状態が続くと早期落葉等の発生が心配され、今後、貯蔵養分の蓄積への影響が懸念されます。このた

め、降雨により園内に長時間停滞水が発生しないように、明きよなどで積極的な排水に努め樹勢の低下を防ぎましょう。

#### イ 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度（あかつき：中肥沃度地帯の場合）を施用します。なお、樹勢の低下が見られる樹では分肥し、窒素成分で秋肥を6～7割程度、春肥を3～4割の施用量とします。樹勢が旺盛で、新梢の二次伸長程度の著しい樹においては、枝の充実を促すために施用を控えましょう。

#### ウ 秋季せん定

現在、新梢伸長は概ね停止していますが、若木や強勢樹で新梢に二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定方法とします。樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。弱勢樹では、秋季せん定を最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法とします。

特に幼木から若木時代の冬季せん定が強く、主幹部に大きな切り口を作ると寒凍害を受けやすくなるため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝については秋季せん定時に整理しましょう。

表4 モモの施肥基準

地帯 区分	品 種	目標収量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)					
			N				P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
			秋肥	冬肥	春肥	追肥	冬肥	
肥沃度 中	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	2	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5～7	2	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6～8	2	—	10	12
肥沃度 高	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12
流亡 程度大	日川白鳳・暁星	2,400	5	—	4	2	10	12
	あかつき	2,600	7	—	4	2	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	—	4	2	10	12
腐植質 火山灰土	日川白鳳・暁星	2,400	7	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12

注：土壌表面は部分草生、秋肥は9月、冬肥は11～12月、春肥は2～3月、追肥は6月。

## (2) な し

### ア 施肥

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃を目安に礼肥として尿素を中心に速効性の窒素肥料をN成分で4～5kg/10a施用しましょう。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるので、できる限り早く礼肥を施用しましょう。

### イ 落果防止剤の散布

「二十世紀」等落果防止剤処理が必要な品種は、剤の使用時期と他の中晩生種への飛散防止に注意しながら散布しましょう。

### (3) りんご

#### ア 修正摘果

本年は8月上中旬に土壌の過湿状態が続いたため、樹勢の低下や果実の裂果が懸念されます。形状や肥大状況を良く観察して果形の悪い果実や小さい果実を中心に樹勢に応じた修正摘果を実施して果実を揃えましょう。

#### イ 中生種の収穫前管理

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて行い遅れないようにしましょう。摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、初めは果実に直接触れている葉を中心に軽めに行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

#### ウ 落果防止剤の散布

「ジョナゴールド」等の収穫前落果が多い品種では、落果防止剤を散布しましょう。なお、散布に当たっては剤の使用時期等に十分注意しましょう。

### (4) ぶどう

#### ア 収穫における留意点

##### (ア) 「巨峰」の収穫適期の把握

収穫時期は、当該年の気象条件や立地条件等によって異なります。また、樹勢や着果量、房の大きさ等によっても異なるため、収穫前には必ず果皮色や食味を確認し、適期収穫を心がけましょう。

##### (イ) 「シャインマスカット」の収穫適期の把握

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が困難です。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫を心がけましょう。

##### (ウ) 収穫時の注意点

- a. 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪くなります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫しましょう。
- b. 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c. 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫しましょう。
- d. 果粉を落とさないために、収穫果実は穂軸を持ち、果粒には直接触らないようにしましょう。

##### (エ) 鳥獣害対策

近年、カラスやムクドリ、ハクビシン等による鳥獣害が増加しています。これらの鳥獣は収穫間際になって加害するため、生産者にとっては減収に加えて精神的なダメージも大きくなります。現在のところ、労力がかからず安価で効果的な対策は難しいですが、テグスや防鳥網、防風ネット及び電気柵の設置等により被害の軽減を図りましょう。併せて、被害果実の処理や2番果の除去等によりほ場内や周囲の環境を管理し、鳥獣を寄せ付けないようにすることが重要となります。

## 4 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア りんご炭疽病、褐斑病

病虫害発生予察情報・発生予報第6号（平成29年8月31日付け）によると、炭疽病と褐斑病の発生量がやや多いと予測されています。9月4日現在の研究所内の「ふじ」殺菌剤無散布樹における褐斑病の発病葉率は46.2%と昨年（33.0%）よりも高く、落葉も見られています。中・晩生種では9月上旬に効果のある薬剤を使用し、両病害の蔓延を防止しま

しょう。

イ ももせん孔細菌病

8月下旬の福島地域および伊達地域における新梢葉での発生ほ場割合は平年並でしたが（平成29年8月31日付け病害虫防除情報）、秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の予防散布に努め、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。防除薬剤は4-12式ボルドー液またはI Cボルドー412 30倍を使用し、9月上旬～10月上旬に2週間間隔で3回散布しましょう。なお、9月中旬以降に使用する場合、これらの剤にかえてクレフノン 100倍加用コサイド3000 2,000倍、またはクレフノン 100倍加用ムッシュボルドーD F 500倍を使用してもかまいません。ただし、コサイド3000は高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

本種の第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するため、「幸水」の果実被害が目立つ園では中晩生種を対象に防除を実施しましょう。また、シンクイムシ類の被害果を発見したら摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

ウ カイガラムシ類

合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用した園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

越冬虫の誘殺を目的としたバンド処理は9月下旬頃までに行いましょう。

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>